

科目名	人体構造機能学Ⅱ (内臓・脈管系)	担当教員	信太 雅洋※ 森野 陽※ ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	----------------------	------	-------------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR23C	②					

科目概要	「人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）」で学習した基礎的な知識を基に、生命が恒常性を維持する仕組みを更に深く理解しイメージ体験することを目的とする。本科目では生体内部の構造と働きについて、特に呼吸循環器系について、心電図計測や呼吸機能検査、血圧・脈拍・呼吸数などのバイタルサイン測定など、学生同士での演習を通して、各種バイタルサインの意義や理論的考察、生命の恒常性の理解を深め、知的探究心を醸成する。
学習目標	① 血圧、脈拍、呼吸数などのバイタルサインについて理解する。 ② 心電図について理解を深める。 ③ 呼吸機能検査について理解を深める。 ④ 安静時と運動時の呼吸循環応答を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	オリエンテーション バイタルサイン概論	オリエンテーション バイタルサイン概要	バイタルサインについて理解する。	信太 森野
2	バイタルサイン(2)	脈拍・血圧	収縮期血圧、拡張期血圧の理解を深める。 血圧測定の仕組みを理解する。 安静時と運動時の血圧違いを理解する。	信太
3	バイタルサイン(3)	脈拍・血圧	収縮期血圧、拡張期血圧の理解を深める。 血圧測定の仕組みを理解する。 安静時と運動時の血圧違いを理解する。	信太
4	バイタルサイン(4)	脈拍・血圧	収縮期血圧、拡張期血圧の理解を深める。 血圧測定の仕組みを理解する。 安静時と運動時の血圧違いを理解する。	信太
5	肺の構造 気管支の構造(1)	肺区域	それぞれの肺区域と位置関係を理解する。	森野
6	肺の構造 気管支の構造(2)	区域気管支の分岐方向	区域気管支の位置と方向を理解する。	森野
7	呼吸機能検査(1)	拘束性換気障害、閉塞性換気障害	肺気量分画について理解を深める。拘束性換気障害、閉塞性換気障害について理解を深める。	森野
8	呼吸機能検査(2)	フローボリューム曲線	フローボリューム曲線の理解を深め、疾患の特性を理解する。	森野
9	呼吸様式	安静時の呼吸と運動後の呼吸	運動時の呼吸ならびに運動終了後の呼吸を理解する。	森野
10	心電図(1)	心電図の成り立ち	心臓内興奮伝導系のメカニズムと各波形の成り立ちと意味を理解する。	信太
11	心電図(2)	正常心電図	12誘導心電図の各誘導の成り立ちと意味を理解する。実際の心電図を読影する。	信太
12	心電図(3)	心電図測定	心電図の測定演習を通して理解を深める。	信太
13	心電図(4)	心電図測定	心電図の測定演習を通して理解を深める。	信太

14	心電図(5)	心電図測定	心電図の測定演習を通して理解を深める。	信太
15	まとめ	まとめ	本講義で学んだ事柄について、それぞれ関連付けて説明することができる。	信太 森野
評価方法		レポート 80% 平常点（講義への取り組み） 20%		
課題に対するフィードバック		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
教科図書		F.H.マティーン・他『カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで』西村書店、2003年 高邑富久子・著『シンプル生理学 改訂第7版』南江堂、2016年		
参考図書		松村謙児・著『イラスト解剖学』中外医学社、2017年 本郷利憲、他・編『標準生理学』医歯薬出版、2014年		
学習の準備		1 （予習）人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）での講義内容を復習しておくこと（15分） 2 （復習）授業中に配布した資料を見直し、理解を深めること（30分）		
オフィスアワー		月・火・木・金曜日 16時30分から18時		
担当教員欄に※印を付した教員の実務経験		信太雅洋・森野陽は、民間病院で呼吸器系ならびに循環器系における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。		